

公表

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス 運動療育はいたっち蒲生四丁目教室		
○保護者評価実施期間	R8年 2月 4日		R8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40	(回答者数) 30
○従業者評価実施期間	R8年 2月 4日		R8年 2月 11日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 3月 1日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・一人ひとりに合わせた丁寧なプログラム作成と指導	・同じ運動メニューでも、個別に狙いを変える ・こどもの特性やその日の状態に応じて、適切な内容で柔軟に対応できる意識作り	・指導員間でのこどもや指導に関する密な共有
2	・学校での運動、体育内容や身辺操作の困りごとについて多様にメニューを組み合わせることができる。	・メニューの最初にストレッチを行うことで、リラックスしながら児童とコミュニケーションを取る時間がある。 ・児童から好きなことや得意なこと、苦手なことを聞くことがある。	・メニューの多様化を図るため、随時メニューの更新を行っていく。
3	・少人数で行うため、児童の成長を近くで見守ることができる。 ・課題について、児童とフィードバックしやすい環境である。	・児童に合わせて用具を選択したり、ルールを作るなどして難易度の調整を図っている。	・児童のできたこと、難しかったことを定期的に記録、共有していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・利用時間が限られているため、児童の気分や様子によってはメニューをすべて行うことが難しい時がある。	・放課後の利用で学校の疲れが出やすい時間でもある。	・見通しの立てやすいメニュー表作りを意識する。 ・児童にとって、活動の強化子になるような運動を取り入れ、メリハリをつける。
2	・個別に対応しているこどもは、集団での活動に対する課題に対処しづらい。	・同年代の利用者がいないとどうしても個別の運動になってしまう。	・指導員の人数に余裕がある場合、積極的に一緒に活動していきたい。
3	・活動の中で、こどもの怪我を防ぎきれていない場面がある。	・気になる場所や物があると近づいてしまったり、小集団での運動では接触してしまうことがある。	・指導員からの声かけに加え、事前に事故に繋がる要素をできるだけ取り除けるよう工夫し続ける。 ・ヒヤリハットの共有を指導員全体で継続して行う。